

¹²³I-FP-CIT を用いたドパミントランスポーターイメージングにおける 画質と診断能の評価

●はじめに

パーキンソン病やレビー小体型認知症の検査として ¹²³I-FP-CIT という薬剤を用いて脳のドパミントランスポータを撮影する検査（ダットシンチ）が日本でも行えるようになりました。しかし、検査の方法や画像の作り方によって判定結果が変わることがあるといわれています。われわれはダットシンチをより信頼性の高い検査にするため、最適な検査方法を確立しようと考えています。

●対象

本研究は2014年4月1日から2014年10月31日までの間に倉敷中央病院にてダットシンチ検査を受けられた方を対象とさせていただきます。対象となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

●研究内容

すでに実施されたダットシンチ検査のデータを分析します。撮影方法や画像作成方法が診断結果に与える影響を明らかにし、最適な条件を確立したいと考えています。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な費用は発生しません。

●個人情報の管理について

本研究では個人情報漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の経過中および結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含みません。対象者となることを希望されない方および個人情報の開示を請求される方は、下記連絡先までご連絡下さい。

●研究期間

研究を行う期間は2016年3月31日までです。

●データの二次利用について

今回得られた画像データなどの情報を別の研究に二次的に利用する場合は、改めて研究計画を立案し倫理審査委員会で承認された後に利用します。研究終了後のデータは5年間の保存ののちにPCやUSB等の記録媒体から削除し、関連する紙やDVD等の媒体は裁断後に廃棄いたします。

●医学上の貢献

この研究により最適な撮像処理条件を明確にすることができれば、より正確な診断を患者さんに提供できるようになると考えています。また、この結果を発展させることで、どの施設でも同じ品質の検査が可能になり、ひいては患者さんの御負担を少なくすることにつながると考えています。

【研究機関】

九州大学医学研究院保健学部門	・教授	・佐々木雅之
医学系学府保健学専攻	・大学院生	・松友紀和（倉敷中央病院・診療放射線技師）
倉敷中央病院 放射線診断科	・核医学部長	・中谷航也（医師）
倉敷中央病院 放射線技術部	・診療放射線技師長	・熊代正行（診療放射線技師）
倉敷中央病院 放射線技術部	・RI,PET/CT 検査室室長	・長木昭男（診療放射線技師）
倉敷中央病院・放射線技術部	・RI,PET/CT 検査室	・亀井山弘晃（診療放射線技師）

連絡先：

九州大学医学研究院保健学部門 佐々木雅之
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1
TEL (092) 642-6746
E-mail: msasaki@hs.med.kyushu-u.ac.jp